



ゆづりは

堺市立図書館だより

第2巻 第3号 (通巻 5号)
発行日 平成19年12月11日
編集・発行 堺市立中央図書館
〒590-0801 堺市堺区大仙中町18-1
電話 072(244)3811
Fax 072(244)3321
URL <http://www.lib-sakai.jp/>

図書館はたのしい! 美原図書館まつり



おはなしのへやに登場した楽しいプログラム

11月3日(土)「第7回美原図書館まつり」を開催しました。

毎年読書週間に合わせたこの時期、市民のみなさんにもっと図書館に親しんでいただこうと、開催しています。

当日は快晴に恵まれ、たくさんの方が美原図書館を訪れ、楽しいひとときを過ごしました。

当日のプログラム

- ・おりがみ-トトロをつくろう!
- ・押し花アート-しおりをつくろう
- ・バルーンアート
- ・声のテープ作り
- ・図書館クイズ

ほかにもいろいろ!

おはなし会のプログラム

- ・ふしぎなたいこ
- ・とりつこうか ひつつこうか
- ・こぶじいさま
- ・三匹のこねこ(エプロンシアター)
- ・うんちしたのはだれよ(絵本)
- ・コロコロパンケーキ(パネルシアター)
- ・おおきくおおきくおおきくなあれ(紙芝居)

ほかにもたくさんのおはなしがいっぱい!



図書館クイズ、何問正解したかな?

手作りコーナーのプログラム

- ・ストローとんぼ
- ・ゆらゆらガイコツ
- ・ふくろうのストラップ



ふくろうのストラップ



押し花アートのしおり

本はともだち



堺っ子読書活動

美原西中学校の生徒さんが特別参加してフレッシュな空気を吹きこんでくれたほか、多くのボランティアの皆さんにご協力いただきました。

・音訳グループひばり、堺図書館サポーター倶楽部、乳幼児よみかせサークルエンジェル・エッグ、美原おはなしスプーンの会、美原読書友の会・おはなしひろばくれよんほか、個人ボランティアのみなさん

目次

美原図書館まつり	・・・1
堺図書館サポーター	
養成講座を開催	・・・2
堺の名所	
復原された「旧堺燈台」	・・・2
わたしのとっておきの一冊	・・・2
堺かるた いろはの「い」	・・・3
この本で解決!	
~この詩、誰の詩? 編	・・・3
よんでみてみて!	・・・3
年末年始・資料(点検)整理期間	
による休館のお知らせ	・・・3
司書のイチ押し!	
鬼海弘雄写真集	
『PERSONA』	・・・4

ゆづりは

とは・・・

中央図書館の正面玄関前に、堺生まれの詩人、河井醉茗氏の歌碑があります。

「年ごとにゆづりゆづりて譲り葉の ゆづりしあとにまた新しく」

この歌にちなみ、年月を経て、世代を越えても、次々に新しい情報をお伝えできるように、堺市立図書館だよりに「ゆづりは」と名づけました。

(河井醉茗氏については、「ゆづりは」通巻第1号にご紹介しています。)



堺図書館サポーター養成講座を開催

ゆづりは第2号でご紹介した「堺図書館サポーター倶楽部」を覚えていらっしゃいますか？「図書館サポーター養成講座」、東図書館では、9月27日(木)、中央図書館では11月11日(日)に開催しました。現役の学生さんからセカンドステージを楽しむ皆さんまで、幅広い年齢層の方々が参加されました。

図書館の業務、本の分類や並べ方についての説明と、図書館内見学で、普段は見られない図書館の仕事の裏側や、書庫を知っていただきました。また、古い地図や絵図をご覧いただきながらの地域資料の解説、現在活躍中のサポーターさんを講師にむかえた本の修理・コートかけの体験もしていただきました。



絵図をご覧いただきながら説明

本のコートかけに挑戦！



受講後は、書架整理、本の修理、電話帳の整理、行事の受付・準備、寄贈本のコートかけなど、さまざまな分野で活動していただいています。

養成講座は、毎年行っています。「図書館でボランティアをしたい」という熱意とやる気のある方は、どなたでも入っていただけます。開催館、開催日も徐々に拡大し、たくさんの方が参加していただけるよう、計画中です。来年度の開催予定については、広報さかい等でお知らせいたします。ぜひご参加ください。

堺の名所 復原された「旧堺燈台」

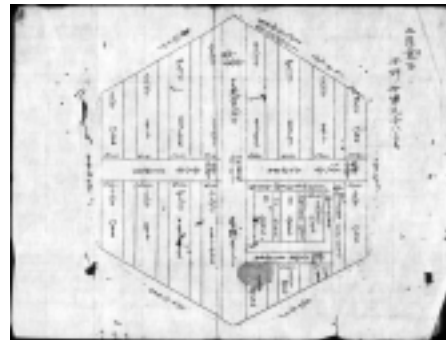
南海本線堺駅の西約1キロメートル、堺旧港の突端に位置する「旧堺燈台」は、明治10年(1877)に建築された建物です。現地に現存する木造洋式灯台としては、わが国で最も古いものの一つとして、昭和47年に国の史跡に指定されました。

対外条約に基づく他の官設灯台とは異なり、資金や技術の多くを堺の住民によって建設されていることが特徴です。

近年老朽化が著しくなり、平成13年度から解体保存修理工事が行われ、今年往時の姿が甦りました。

中央図書館では、「堺旧港修築記録」という名称の文書群を所蔵していますが、その内容は「旧堺燈台」建設に関するものがほとんどで、今回の復原のための貴重な資料となりました。下の図はその中の資料で、2階の床構造の図です。和紙に尺寸法で記され、灯台本体部は、当時の堺の大工により設計されたと考えられています。

なお、これらの資料の一部は図書館ホームページの「デジタル郷土資料展」の中の「旧堺燈台-大浜のきのう・きょう・あす-」で見ることができます。



堺旧港修築記録より
灯台の六角形が
わかりますか？

わたしの“とっておきの一冊”～その4

引き続き、みなさんの「とっておき」をご紹介します。今月は「募集」のお知らせもありますよ！

『ブリット-マリはただいま幸せ』アストリッド・リンドグレン

人にとっては平凡な日々でも、少女にとってはワクワクとドキドキに満ちた日々、見かた一つで世界はとも違って見えるのだらうと思いました。(10代・女性)

『この素晴らしき世界に生まれて』福田隆浩

耳の不自由な少女が、迷い、悩みながらも大人になっていく物語。特に最後の一節が良い。(10代・女性)

『定本 日本沈没』上下小松左京

二段組で少し読みづらいけど、じっくり時間をかけて読むと面白い本です。(10代・男性)

『ダレン・シャン』ダレン・シャン

予想できない展開で、ハラハラドキドキさせる本です。ダレン・シャンの勇気ある行動が元気をくれました。(10代・女性)

とっておきの一冊を教えてください

今までに読んだ、あの本、この本。

その中でも、いちばん心に残った本を教えてください。

図書館にある応募用紙、または図書館HPから印刷した応募用紙に、その本のタイトル、作者、心に残った理由を書いて、備え付けの応募箱にお入れください。

ご応募いただいた中から、「とっておきの一冊」として「ゆづりは-堺市立図書館だより」の紙面で紹介させていただきます。

たくさんのご応募をお待ちしています！





堺かるた-いろはの「い」

「上毛かるた」をはじめとするご当地かるたが堺にもあることをご存知ですか？それは『堺かるた』。子どもたちが楽しみながら堺の歴史を学べるようにと、昭和51年11月に出版されました。かるたの文は市民から募集し、はとぶえ会が編集、原画は堺市内の小中学校の図工科の先生方が描く、という風に、市民の手作りでできたかるたです。市内の書店で販売されていましたが、現在は残念ながら流通していません。

堺には、他にも行基かるた、五箇荘歴史かるたなど、地元の歴史を取り上げたかるたがあります。

堺かるたの内容を順にご紹介していきましょう。今回は「いろは」の「い」。今度のお正月には、ご家族で遊びながら堺のことを学んでみてはいかがでしょうか？意外な堺、忘れていた堺が見つかるかもしれません。



「い」 和泉河内大和 あわせて堺県

堺県は慶応4(1868)年6月22日から明治14(1881)年まで存在しました。範囲は最大で現在の大阪東部(旧河内国)、大阪南部(旧和泉国)、奈良県全域(旧大和国)を含む広いものでした。県庁は西本願寺別院(堺区神明町)におかれました。

よんでみてみて！

美原図書館「ティーンズエリア」は10代の人向けの本を集めたコーナーです。

投稿箱に寄せられたおすすめ本情報やイラストをご紹介します。

♡『アラビアの空飛ぶ魔法-マジック・ツリーハウス』
1回よむとハマる！それくらいおもしろい！

(パンダ 11歳)

♡『今日から魔王！？』

オススメです！アニメは終わっちゃいましたけど、文庫本があるので、ぜひよんで下さい
(灰音 11歳)



この本で解決！

～「この詩、誰の詩？」編～

第4号に引き続き、ご利用の皆様から寄せられた質問と図書館からの回答を紹介します。今回は「この詩は誰の詩？」と題し、断片的な情報から文学作品を探した例をいくつかご用意しました。紙数の関係上、質問と回答しかご紹介できませんが、実は、回答に至る道筋こそ、司書としての腕の見せ所です。図書館のホームページの中の「こんな調べものがありました」のページでご紹介している事例は、回答への道筋も含めて掲載しています。興味をお持ちの方はぜひご覧ください。

Q 「わが胸の底のここには・・・」で始まる詩の全文と、詩の作者を知りたい。

A 正確には「吾胸の底のこゝには」。タイトルもこれに同じ。作者は島崎藤村で、『落梅集』に載っています。(「胸より胸に」其5)。詩の全文は『島崎藤村全集 第1巻』(筑摩書房)や、『日本の詩歌 1 島崎藤村』(中央公論社)に収録されています。

Q 「銀母 金母 玉母」で始まる歌の作者を知りたい。

A 歌の作者は山上憶良。「銀母 金母 玉母」は万葉仮名による表記で、読み下し文での表記は「銀も 金も玉も 何せむに まされる宝 子に及かめやも」(全文)。この歌は「子等を思ふ歌」の「反歌」として、『万葉集』の第八巻に採録されています。

Q 「春花秋月入詩篇」で始まる漢詩の作者と意味を知りたい。

A 「題隠霧亭」という七言絶句の作品で、作者は唐の時代の女流詩人、魚玄機です。漢詩の意味については、当市の所蔵本では見つからなかったため、大阪府立図書館より『漢詩大系15 魚玄機・薛濤』(集英社)を取り寄せて確認すると、「題隠霧亭」の原文と訳文が載っていました。

Q 本居宣長の著作で、「人のうまれつきさまざまある事」という文章が載っている作品を知りたい。

A 『日本随筆索引』(岩波書店)の「性質」の項から、本居宣長の『玉勝間』の文章であることがわかりました。岩波文庫『玉勝間 下巻』p.209、『本居宣長全集 第1巻』(筑摩書房) p.435 に載っています。

大和川、堺のうたなど、特定のテーマについては、調べ方マニュアル「図書館で解決!？」として印刷・発行しています。また、これらの事例やテーマ別調べ方マニュアルは、図書館ホームページでもご紹介しています。

休館日のお知らせ

年末年始休館

平成19年12月30日(日)

～平成20年1月5日(土)

返却ポストも閉まります。

平成19年12月29日(土)午前10時

～平成20年1月5日(土)午前10時

資料(点検)整理期間による休館

整理期間の間、館内にある資料すべてを一冊一冊点検していく作業を行っています。休館日を減らせるように、作業の効率化、改善を繰り返しておりますが、お求めの資料を確実に提供していくためには欠かせない作業です。ご理解いただきますよう、よろしくお願いたします。

- ・ 榎分館・美木多分館 1月30日(水)～2月1日(金)
- ・ 北図書館 2月4日(月)～2月8日(金)
- ・ 美原図書館 2月18日(月)～2月27日(水)

司書のイチ押し! 人を好きになることー鬼海弘雄写真集『PERSONA』草思社2003

東京浅草といえば浅草寺。その境内で偶然出会ったひとびとを、境内の何処にでもある朱塗りの壁の前で撮ったモノクロの肖像写真集。それが『PERSONA(ペルソナ)』である。

「歳の祝いの日」、「遠くから歩いて来たという青年」、「農業協同組合の野菜部職員」、「御みくじを丹念に読んでいたひと」、「背筋を伸ばして歩いていたひと」・・・ページをめくるうちにどんどん写真に引き込まれてしまう。何度も何度も繰り返し見てしまう。どこにでも歩いているようなおばさん、おじさん、お兄さん、お姉さんが立っているだけなのに、短いキャプションと一緒に見ていると、その人の生活、人生をも感じられるような気になり、また会いたくなる。

中国製カメラを持っていたひとのように同じ人を十数年後に写した写真もあり、その変わり様に驚かされ、時間というものを考えさせられたりもする。

写真家鬼海弘雄(きかいひろお)氏は1945年山形県に生まれ、法政大学文学部哲学科卒業後、トラック運転手、遠洋マグロ漁船乗組員、暗室マンなどのさまざまな職業を経て写真家になる。

そのきっかけになったのは、ある肖像写真集。『PERSONA』のあとがきに、「初めて買った写真集は何度繰り返して見ても飽きないことに驚かされた。写っている見知らぬひとたちが、ページをめくるたびに、生きることの深遠をじかに話しかけてくるからだ。」とその衝撃を語り、自分にあった仕事を探しあぐねていた鬼海氏は「写真表現はカメラという便利な器械を使うので自分でもできそうな錯覚がして、深く考えもせず急に写真家になろうと思いついた。」という。

そして、最初に肖像写真を撮りに浅草に出かけたの

が1973年。それから三十年間撮り続け、肖像写真集として3冊目になるのがこの『PERSONA』である。鬼海氏はこの写真集により「第23回土門拳賞」、「2004年日本写真協会賞年度賞」を受賞している。

さて、この写真集の普及版として出版された『ペルソナ』(2005年、草思社刊)には、いくらかの写真の入れ替え、追加とともに、4本のエッセイも添えられ、鬼海氏が浅草寺に撮影に出かけている様子を知ることができる。もっとも、3時間ほど境内をうろついたり佇んだりしている中で、写真を撮らせてもらうのは一人か二人、撮影を頼む人もわずかだそうで、撮影というよりは人間ウォッチングのようだが。

「人を好きになること・あとがきにかえて」の中で、「わたしは、人が他人にもっと思いを馳せていたり、興味を持てば、功利的になる一方の社会の傾きが弛み、少しだけ生きやすくなるのではないかと思っている」、「そんな妄想から、存在感に溢れた人びとを、よりいっそう恰好良く、まるで舞台に立つ主人公のように撮りたいとだけ、いつも思っている。もっと人を好きになればいいのだと.....。」と語っている。

『AERA』2005年4月25日号(朝日新聞社刊)には鬼海氏への取材記事が掲載されているので、ご興味のある方はこちらもご覧いただきたい。(m)

堺市立図書館電話番号一覧

音声応答サービス	280-0415
中央図書館	244-3811
くすのき号	244-3811
堺市駅前分館	222-0140
中図書館	270-8140
東百舌鳥分館	234-9600
東図書館	235-1345
初芝分館	286-0071
西図書館	271-2032
南図書館	294-0123
榎分館	296-0025
美木多分館	296-2111
北図書館	258-6850
美原図書館	369-1166
人権ふれあいセンター図書ホール	245-2534
青少年センター図書室	229-5120

お詫びと訂正

「ゆづりは通巻第4号」4面「司書のイチ押し」において、竹内浩三の詩に誤りがありました。正しい詩は以下の通りです。お詫びして訂正いたします。

戦死やあわれ

兵隊の死ぬるやあわれ

遠い他国で ひょんと死ぬるや